

## 京都大学人文科学研究所共同研究最終報告書

### 1. 研究課題

北朝石窟寺院の研究

Studies on the Buddhist Cave-temples in the Northern Dynasties

### 2. 研究代表者氏名

岡村秀典

Hidenori OKAMURA

### 3. 研究期間

2015年04月 - 2020年03月 (5年度目)

### 4. 研究目的

中国山西省にある雲岡石窟は、5世紀の北魏時代に開鑿の始まった仏教寺院である。1938年から1944年までの7年間、人文研の水野清一と長廣敏雄らは、その大小すべての石窟を対象に測量・写真撮影・拓本を作成し、戦後にその報告書『雲岡石窟』全16巻32冊を公刊した。そのPDFを京都大学リポジトリに公開した結果、各界から大きな反響が寄せられ、なかでも中国から中国語版の出版について打診があり、人文研と中国社会科学院考古研究所との共同編集により旧版の中文訳に加えて旧版未収録の写真・拓本類を増補した『雲岡石窟』全20巻を出版しつつある。これをふまえて本研究班では、龍門石窟や響堂山石窟など北朝石窟にかんする人文研所蔵写真・拓本類の整理と公開を継続して進める。

The Yungang Caves, located near the city of Datong in Shanxi province in China, are a group of Buddhist cave-temples excavated in the latter half of the fifth century by the Northern Wei dynasty. Between 1938 and 1944, following on from investigations of the Xiangtangshan Caves in Hebei province and the Longmen Caves in Henan province, the Research Institute of Oriental Culture, the predecessor of the Institute for Research in Humanities, Kyoto University, carried out investigations of the Yungang Caves and neighboring sites. A report of these investigations was published in the form of the voluminous Yunkang (1951-1956) in 16 volumes and 32 fascicules by Mizuno Seiichi and Nagahiro Toshio. This research seminar set about researching on the visual materials and field notes collected from such investigations with the goal of systematically digitizing and actively promoting the further use of these research resources, and making them

available to the public.

## 5. 研究成果の概要

水野清一・長廣敏雄『雲岡石窟』(全16巻32冊、1951～1956年)図版解説の会読を隔週で実施した。本研究所と中国社会科学院考古研究所との共同編集により中国の科学出版社から刊行している『雲岡石窟』中英語版は、当研究班を主体とする日中米の研究者が執筆した第三期(第17～20巻)の日本語版4巻9冊(総1641頁)は2017年8月、中国語版は2018年6月に刊行され、全20巻42冊(中国語版も同数)が完結した。また、2016年の『國華』誌上に当研究班の3人が、同年の『東方学報』京都第91冊に3人が、2018年の『東方学報』京都第93冊に2人が、それぞれ成果論文を発表した。さらに東京大学東洋文化研究所と協力して100年前の中国石窟写真を集大成した『中国文化遺産』石窟巻(全5巻)を2020年に清華大学出版社から刊行する予定である。このほか、2018年度には招へい研究員として中国社会科学院考古研究所の李裕群先生と龍門石窟研究院の焦建輝先生をお招きし、李先生には5回、焦先生には6回の連続セミナーを開催していただいた。

## 6. 共同研究会に関連した公表実績

共同研究会に関連した公表実績: 出版物・京都大学人文科学研究所・中国社会科学院考古研究所編(岡村秀典監修)『雲岡石窟』第二期中英語版(全9巻18冊、2016年1月、北京、科学出版社)、第三期日本語版(全4巻9冊、2017年8月、科学出版社東京)、第三期中国語版(全4巻9冊、2018年6月、科学出版社)・岡村秀典著『雲岡石窟の考古学 游牧国家の巨石仏をさぐる』京大人文研東方学叢書3(2017年6月、臨川書店)・稲本泰生・安岡素子編『松本文三郎旧蔵 龍門二十品拓本』東アジア人文情報学研究センター東方学資料叢刊第24冊(2017年10月)・稲本泰生・安岡素子編『センター研究年報2017』京都大学人文科学研究所附属東アジア人文情報学研究センター(2018年2月)・石松日奈子「山西平定開河寺石窟の研究 - 北朝期の石窟三所と隋開皇元年「鎮國王像雙丈八」銘摩崖大佛」『東方学報』京都第91冊(2016年12月)・岡村秀典「雲岡中期における佛教圖像の變容」『東方学報』京都第91冊(2016年12月)・外村中「キジル石窟に描かれた大乘の神變佛について」『東方学報』京都第91冊(2016年12月)・岡村秀典「雲岡石窟の初期造像—曇曜五窟の仏龕を中心として」『東方学報』京都第93冊(2018年12月)・外村中「漢訳『華嚴經』の原典『ブッダ・アヴァタンサカ・スートラ』の仏身論と宇宙論について」『東方学報』京都第93冊(2018年12月)

## 7. 研究成果公表計画および今後の展開等

研究成果公表計画および今後の展開等 水野清一・長廣敏雄『龍門石窟の研究』(座右宝刊行会、1941年)の中国語版を中国鄭州の大象出版社から出版する準備を進め、本学との間で出版契約を締結したほか、岡村秀典『雲岡石窟の考古学』(臨川書店、2017年)の中国

語版について四川人民出版社との間で出版契約を締結し、2020年の刊行をめざしている。東京大学東洋文化研究所と協力して100年前の中国石窟写真を集大成した『中国文化遺産』石窟卷(中国語版全5巻)の執筆・翻訳と編集を進め、2020年に清華大学出版社から刊行する予定である。

